



8月19日（水）LAC ミニ講座 at 会議室

LAC39回卒業の谷七海さん、山本望月さん、榊理奈さん、駒芙友子さんが来てくださり、「LAC 在籍中とその後」というテーマでそれぞれパワーポイントを使って話をしてくれました。実際の経験を生で聞けて、とてもいい機会になりました。

谷 七海さん（武庫川女子大学）

- ・留学にぜひ行ってほしい。“外国人に話しかける勇気”を持つことで、たくさん話せるようになるし、違う価値観を取り入れることができるようになる。
- ・アルバイトもやってほしい。いい経験になる。ただ、大学生になってからいくらでもできるので、高校では高校でしかできないことをしっかりやってほしい。
- ・友だちとケンカもたくさんしてほしい。ケンカすることで相手のことがよりわかるし、仲も深まる。その過程を経て、最後は仲良く卒業できる。

在学中にやっておいたほうがいいこと

単語の勉強！！

山本 望月さん（立命館大学）

- ・クランボルツ 偶発性理論『人生の8割は予期しない出来事や偶然の出会いによって決定される』
- ・在籍中、中国広東省に行ったり、ボランティアキャンプに参加したりした。大学に入ってからマレーシアへ5か月留学したり、G20大阪にボランティアとして参加した。さまざまな活動を通して、気づいたことは“しっかり情報を集めることの大切さ”と“自分より優れている人がいるからといって、やりたいことを我慢しない”ということ。

在学中にやっておいたほうがいいこと

高2までに大学受験に必要な力をつけておくこと。

榊 理奈さん（関西学院大学）

- ・LACでよかったことは、意識の高い人、英語の好きな人たちと出会えて刺激をもらったこと。
- ・マウントガンビアに行きたかったが、吹奏楽部のコンクールの時期と重なっていて悩んだ。でも、“やる前からできないと決めるのではなく、まずやってみよう”と思い、行ってみることにした。
- ・大学でフィリピンへ2週間行って日本文化を伝えるボランティア活動をしたり、1週間欧米の人たちを呼んで交流したり、ラグビーワールドカップにボランティアとして参加し、チームリーダーをしたり、イギリスに1ヵ月留学したりと、さまざまな活動をした。
- ・大切なのは“積極性”とコツコツ続けること

駒 芙友子さん（大阪成蹊大学）

- ・中学のとき英語ができると思って入学したが、実際にLACに来てみると、自分よりすごい人がたくさんいて挫折した。その反動で在学中は遊びまくって先生に迷惑をかけ続けた。

入試にもことごとく失敗しボロボロになったとき、最後に助けてくれたのが担任の先生だった。

- ・英語ができないという状態になったとき、自分を見つめなおしてたどりついたのが、ピンチのときに助けてくれた「先生」という職業。自分に外国の血が流れていることもあり、私も子どもたちを助けたいという気持ちになって、今は小学校の先生を目指している。
- ・“国際＝英語”ではない。LACにいるからといって、英語だけがすべてではない。いろいろな可能性がある。

もう1人参加してくださったのが、9月から教育実習生として来られる38回生の宮口真帆さん。

- ・LACではなかったけれど、英語は好きだった。
- ・とりあえずやってみる、という精神で、大学に入ってから海外旅行に行ってさまざまな異文化体験をした。その体験をする中で世界のことをもっと知りたいと思うようになり、自分で調べたりした。
- ・自分の中の当たり前が世界ではそうではないということをたくさん知った。それがとてもおもしろく感じた。